

令和5年度「生徒自ら行う学習環境整美事業」①

「学校の中庭を楽園に！」学校菜園で学ぶ身近な園芸概論

長野高校定時制 1、2 学年 計 15 名

空き地となっている中庭の区画に木枠を作り、土壌を投入して長野県産の腐葉土を混ぜ込み、作物が生育可能な土作りを実施した。

その後、3区画にジャガイモ、サトイモ（固有種：善光寺）、トウモロコシ等を播種、育成し、心の癒しとなる学習環境を整美した。さらに探究的な学習として日本固有種の野菜の特徴や品種改良のしくみなどを学んだ。

この取り組みを通して、生徒諸君は植物の成長がいかに関与するかに土壌の状態に影響されるかを学んだ。また、普段目にする野菜に様々な品種があり、人の手が加えられた品種と原種に近い品種では、その特徴に大きな差があることを学んだ。

中庭の限られた3区画の土地であるが、普段草に覆われた場所が生徒の協働的な活動により、里芋、ジャガイモ、トウモロコシ等の畑に生まれ変わり、始業前に畑の手入れにやって来るなど、生徒諸君の気持ちも前向きに、そして明るくなったと感じる。

本事業のおかげで、経験不足の定時制の生徒諸君が、仲間と語り、土に触れ、作物を収穫するという貴重な体験ができたことに感謝申し上げます。

【実績写真】



土作り（腐葉土、堆肥の投入）



里芋の苗の移植



6月下旬の畑の様子

作物（ジャガイモ等）の収穫